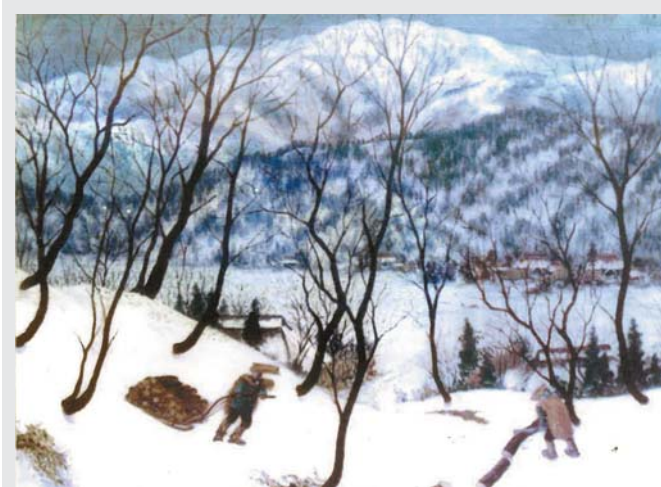


出身者からの声

かたご通信を読んだ方から寄稿頂きましたのでご紹介します。今後も募集していますので、ぜひ声をお寄せください！



『マタギの郷』 吉田勝己 画 西和賀町 沢内太田碧祥寺博物館所蔵

『春木山』

埼玉県在住 貝沢出身
吉田 勝己さん

1930年 貝沢生まれ
20歳 仙台の東北管区警察学校入校(予備隊)
24歳 航空自衛隊創設により転換 米空軍からの移管に携わり、空自幹候校入校(12期生)卒業
27歳 要撃管制官として各地のレーダー基地勤務
航空総隊(東京府中)防空指揮群勤務
51歳 定年退職
学校法人秀明学園の書道講師
かたわら油彩画、短歌を作り、現在毛筆での短歌集の出版準備中

しんと静かな夜に母待つてば
いりり火鉢の顔あたたむ
秋の雨夕ぐずを流しとどめ柵
胸をなぐさめりあげし少年
志半ばで逝く村長の
歳雄を迎ふ万燈の列
二〇一四年 短歌おひな会 謹言

ふるさとの甥世代の方々が中心となって色々なイベントを計画し協力実行しておられる様子がふるさと通信から伺われ、感無量です。今回は『春木山』が主題とのことですので、油彩画の写真を送りましました。

この絵は私の恩師太田租電先生から、碧祥寺博物館の開館に合わせ、昔の村人のくらしの薪を山から切り出す様子を油彩画に、と依頼され3年かけて80号(号はハガキ大)に描き寄贈した私の代表作です。戦中戦後は日本中苦しんだわけですが、とりわけ沢内は豪雪で交通が途絶え多くの命が失われました。私も兄と父を病氣の手当てが遅れ亡くし、つらい少年時代を過ごしました。

故深沢辰雄村長の命をかけたご尽力により通年開通し、盛岡まで1時間通勤圏になっていることは嬉しいことです。

雪石、沢内湯田北上を巡るコースは、温泉に恵まれ景色を身近に見感じ、カッコウの声を聴きながらの時は、都会の人々にとつて最高のドライブコースではないでしょうか。魅力あるいつときポイントをつくりましょう。

かたご通信 vol.3 2017年12月15日発行

発行者／貝沢若畑川内ふるさと交流実行委員会
事務局／西和賀町ふるさと振興課 坂井県和歌山県西和賀町川内40-40-71 TEL: 0197-82-2111

ふるさと貝沢・若畑・川舟の今と、これからの暮らし情報をお届け

2017.12

かたご通信



vol.3



銀河の森 切株を利用したチェーンソーアート(撮影:田中實)

秋も深まり寒くなってまいりましたが、皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

この度第3号情報誌、「かたご通信」としては第2号を発刊することとなりました。前回の情報誌は如何でしたでしょうか、皆様から感想や、投稿等お届け頂き大変ありがとうございました。投稿等につきましては順次紹介させていただきたいと思っております。

さて、この秋西和賀に1つの明るい話題があります、それは町の街灯が一斉にLED化されたことです。マバユイばかりの明るさに感激です。是非、見に来てください。

これからも皆様との情報交換等交流の輪を広めると共に、明るいふるさとづくりに頑張ろうと話合っております。



かたこの里委員会委員長 (若畑区長)

藤原 輝夫

お知らせ



平成30年1月8日(日)
貝沢冬まつり
会場：貝沢公民館
内容：どんと祭、みずき団子づくり他アトラクション多数



平成30年2月11日
雪あかり
会場：西和賀町内全域



貝 沢

刈入れと稲架

今語り

ふるさとの今

貝沢・若畑・川舟のそれぞれの今の風景を紹介します。



若 畑

防災収穫祭は 10 月 29 日（日）、雨の中開催されました。今回で 10 回目の開催となります。

自主避難、災害対策本部設置、安否確認、消火訓練、発電機・投光器の運転訓練、炊出訓練、AED 救護訓練、災害危険個所の点検報告等を実施し、消防署の講評を頂きました。訓練の後は、収穫祭で楽しい交流の宴となりました。



『里山 秋景』川舟 扇の沢（撮影：高橋定雄）

川 舟

今年の 10 月下旬、紅葉の写真を撮りに貝沢の「銀河の森」に行った帰りに出会った、里山の風景です。撮影したのは扇の沢の通称“ガンクラ”というところの近くで、県道と平行して走る農道のあぜ道からの撮影でした。

この時期、誰でも普通に見慣れている里の風景です。



柴田 翔さん（31）
【川舟在住】

昭和 61 年生まれ。西和賀高校を卒業後、技術職の仕事を経て、現在は農業に取り組んでいる。趣味はサッカー、映画鑑賞、アウトドア。

農業を仕事に

今年の春から「農事組合法人高下」に従業員として就職した柴田さん。簡単に言うと農業を仕事とする会社会的な位置づけになる。忙しい時は社員 6 人の他、近所のお母さん達にも協力してもらって作業をしている。

作っているものは、水稻を中心にソバ、りんどう、グラジオラス、大豆だ。翔さんはりんどう担

当だそう。基本の勤務時間は午前 8 時から午後 5 時までだが、忙しい時期は不定休となる時もあり、そこが少し大変だそうだ。

将来は家族と一緒に農業を

「将来は今の法人で働きながら、地域に貢献出来れば良いなあと思いますね。この地域に帰って来た時に一緒に働く場所があったらいいと思います。自分の世代だけでなく、もっと下の世代の人達にも帰ってきて欲しいです。」と話してくれた。将来は、自分と家族と一緒に農業が出来るようになりたいとも、笑顔で教えてくれた。

サッカー観戦、DVD 鑑賞や映画鑑賞も好きで、今年からは友達とアウトドアライフも楽しみ始めた柴田さん。公私ともにのびのびと楽しみながら西和賀の農業を支える、貴重な農業青年にエールを送る。



故郷の若人

不便でも好き

私は、どこへ行くにも車が必要で雪が多く、風も強いこの町が大嫌いでした。でも、良い所もたくさんあります。自然が豊かで空気が綺麗、特に人はとても優しく、私はこの町が好きです。

私の家は酪農家です。牛が近くにいる生活が当たり前で、牛がやりたくて農業高校に入学しました。そこで沢山勉強して、資格も取得して卒業し、半年間の準備を経て就農しました。

就農と言っても実家の酪農を継ぐのではなく、和牛繁殖農家としての新規就農でした。

初めてのことでばかりで、家族や近所の人達に教えてもらいながら、見様見真似でした。

この町は 1 次産業に向いていると思います。広大な土地、キレイな空気、ミネラル豊富な水。それを最大限活かして育てる牛はストレスも少なく健康です。

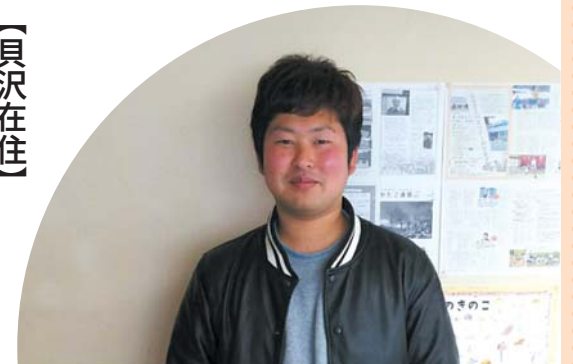
人の集まるレストランを作りたい

今後は、肥育も始めて一貫経営を目指したいです。将来は自分で育てた牛の肉を使った小さなレストランを持ちたいです。近所の人や友達が気軽に集まれる場所をつくり、この町の発展の力になりたいです。

自分のやりたい事を応援してくれる家族、支えてくれる奥さんには感謝しかありません。

盛岡農業高校特別専攻科で畜産を学び卒業後、半年で和牛繁殖農家として新規就農する。今年 5 月に妻、咲子さん（23）と結婚。

【貝沢在住】
中野 渉さん（23）





自伐林家を目指して！

聞いた

都市地域などから地方に移住して地域の活性化を目的に活動する者を自治体が一定期間雇用する『地域おこし協力隊』制度。西和賀町でこの協力隊員として活動する金子さんに話を聞いた。

木が燃えているのを見るのが好き…

横浜でITのプログラマーとして働いていた金子さん。体を壊したことをきっかけに、「好きなことに素直になろう」と思ったという。その中で浮かんだのは、『木が燃えるのが好き→炭焼き』だった。昨年春、縁もゆかりもない岩手県北上市に来て、木炭協会の方に炭焼きを教わっていた。そこで「西和賀町で林業関係の地域おこし協力隊を募集している」と紹介され、今年4月から赴任。貝沢に住みながら、岩手林業アカデミーに通い、一から林業を学んでいる。

初めて聞いたカッコーの鳴き声

貝沢では小学校の教員住宅で暮らしている金

子さん。
「とにかく、静かでいいですね。何にも音が聞こえない、ということ初めて体験しました」と驚きの表情で教えてくれた。さらに、「生まれて初めてカッコーが鳴いたのを聞いたんですよ！」と、目をキラキラさせて教えてくれた。

木を仕事に

今年度で林業アカデミーを卒業し、いよいよ町内で林業に取り組む金子さんの夢は「広葉樹の用材を育てていきたい」「そして、山をやりながら炭を焼きたい。」とのこと。

地域の山を、宝の山に…。今後の活躍に大いに期待したい。



かねこ みつまさ
金子 光雅さん (35) Kaneko Mitsumasa

前在住地：神奈川県横浜。父は島根出身で母は神戸出身。
前 職：ITプログラマー
担当業務：林業分野
志望動機：身体を壊したことをきっかけに、働き方、暮らし方を考えた。木が燃えるのを見るのが好きだったため、林業関係の地域おこし協力隊の募集のあった西和賀へ移住。



昔語り

しめ飾り

冬仕事のひとつであるしめ飾りづくり。互いに協力して作っている様子を紹介します。

今から40数年前から、農協から委託を受けてしめ飾りをつくるようになった。これは、冬場の仕事。小遣い稼ぎとは違い、本気でやれば、それなりの収入源になる。なので昔は、作る人が沢山いたが、ここも人口減少の為、今は作り手が少なくなっている。



材料は、すべて農協が用意してくれる。今はまだ小さいがこれからどんどん大きなものになるそう。やる気さえあれば、誰でもできる。と言うがそんなに簡単には作れそうに無い。ある程度の手先の器用さが問われると思った。

「世間話しながら、手先を動かしていれば楽しいよ！」と、この中で一番若手の赤沢さんは笑って言ってくれた。しめ飾り作りは、これから本番で忙しい毎日が始まる。

左写真：久保一二夫さん(83)【貝沢】
上写真左：久保征子さん(75)【貝沢】
上写真右：赤沢ゆかりさん(50代)【若畑】





昭和36年若畑小学校校庭にて



地蔵尊祭りの山車（平成29年）



中秋の名月も美しく顔を出しました。

地蔵尊祭り

今年も8月23日、伝統の若畑の地蔵祭りが行われました。地蔵尊は県道わきに立っている鳥居をくぐって進んだ木立のなかの駒形神社の境内に祀られております。

祭りは元来旧暦の7月23日に行われておりましたが、今は新暦の8月23日に行われております。

明治23年8月31日、真昼山地を震源とする大地震「陸羽大地震」が発生しましたが、その記録本の中に「丁度その日は北川舟大荒沢に鎮座する地蔵尊の祭りの日であった。」との記述があります。今から121年前のことです。

地蔵尊の鈴には昔から子供が生まれると、その健康安全を祈願し氏名を書いた布を練りつけ祈願する風習となっております。

昔は境内に飴屋などが店を張り、人々が集い酒を酌み交わし、太鼓を打ち鳴らし、輪になりさんさ踊りを夜更けまで踊っていたようです。

山車を出して祭るようになった始まりは、白黒写真にあるように昭和36年頃と思います。馬車の台車を飾り付け、練り歩いたようです。

その後、昭和56年からは各班で競って山車を作るようになり、盛んな時には4台が連なって部落中を運行し練り歩きました。

子供の人数も激減し、平成4年頃からは山車も1台だけとなりましたが、無くしたくないと言うみんなの思いで、実行委員会によりなんとか毎年継続して実施されています。

今年も数日前から山車の飾りつけ、境内の清



特集！若畑

ふるさとのお祭り



貝沢、若畑、川舟の代表的な祭りを特集していきます。
今号は若畑のお祭りである「地蔵尊祭り」と「豆ぬすみ」を特集します。



地蔵尊



祭旗をたてた鳥居



平成2年。この頃は2台の山車が練り歩きました。

掃・草刈、提灯の飾り付け等部落総出で準備がなされ、午後4時ごろから子供達の下校を待って山車が運行されました。

八ツ又佐藤明雄宅からスタートし大荒沢の佐々木悦子宅まで、途中途中で出されるお酒、お菓子等々戴き交流を深めながら無事運行され、最後は境内でのお祭り・宴会となりました。

来年も続けたいですが子供も少なく、引手も少ないのが現実の課題です。提灯の飾りつけなど参加者募集！



縁側に備えられたお菓子などをこっそり盗みます



今年は小学生6名、来年は3名になる予定です。

豆ぬすみ

今年も10月4日、中秋の名月の夜（十五夜）に若畑の「豆ぬすみ」が行われました。「豆ぬすみ」は昔から行われている伝統行事で、中秋の名月の夜に縁側に供えられた豆などのお供え物を子供たちが月に代わってぬすむと言う伝統行事で、盗まれると縁起が良いとされています。

本来各戸で行っていましたが、平成22年から里づくり委員会活動のひとつとして取り組んでおり、今年で8回目となりました。この夜も地区の子供達と大人、岩手大学の学生が公民館に集合し、班に分かれて月明りをたよりにお供え物をぬすみ歩きました。再び公民館に集合した泥棒たちは、ぬすんだお菓子などを分け合って食べ、交流を図りました。古くから伝わる風習を地域の行事として開催しております。

地域の子供たちが少なくなった今、参加する子供は大歓迎です。次回から子供さん、孫さん連れで参加してください、お待ちしております。